

日本エコレザーの6つの条件

- 1 天然皮革である
- 2 発がん性染料を使用していない
- 3 有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- 4 臭気が基準値以下
- 5 適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- 6 染色摩擦堅ろう度が基準値以上

※染色堅ろう度とは、染色された色が摩擦や使用条件にどれだけ耐えるかの指標



多品種生産でファッショニーズに対応し、 日本エコレザーで海外の革と戦っていく

出席者

福本真也氏(株式会社三昌代表取締役)

杉田正見氏(NPO法人日本皮革技術協会 理事長)

稲次俊敬氏(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)

革製品の製造を止め、 革製造のタンナーに徹している

杉田 本日は姫路市内にあるタンナーの(株)三昌の福本真也社長にご登場いただきました。(株)三昌様は、提案性の高い本格的なショールームが、工場脇に別棟で設けられています。斬新な未来志向のデザインの建物は、すぐ横の高架を走る新幹線の中からも見ることができ、一般紙やテレビでも度々紹介されています。

工場では、日本エコレザーをはじめ、多品種の革が生産されています。初めに社歴からお聞かせください。

福本 当社は1969年に父親が創業しました。スタート時は安全靴用の

革を作り、裁断、縫製まで行い、アップの状態にして供給していました。1984年前後からは、婦人用ファッショベルトの製造を始めました。安全靴とは全く違った革の製造を行いました。

私が会社に入ったのは1986年の25歳の時です。それまで黒ばかりだった革の色を増やし、バッグ業界とも取引を行い、また、靴用や海外向けのボール用の革まで種類を広げました。10年ほど前には婦人靴の製造も始めました。しかし、タンナーが婦人靴やハンドバッグまで手掛けるのは難しいことが分かり、思い切って撤退しました。

杉田 現在、皮革市場は大変厳しい状

況にありますが、貴社の業績はいかがでしょう？

福本 現在は革製品の製造を止めて、革製造のタンナーに徹しています。

取引先の有名ブランドが撤退した時などに、売上げは大きく落ち込みましたが、現在は徐々に業績を取り戻しており、今期も伸びる見込みです。また、売上げの中には1割弱ほどですが、インターネットでの販売が含まれています。この事業は、3、4年前から始めたものです。ほとんどが1枚、2枚の革をほしいという細かいオーダーですが、面倒だと思わずにやり続けてきたことで、注文は増えています。

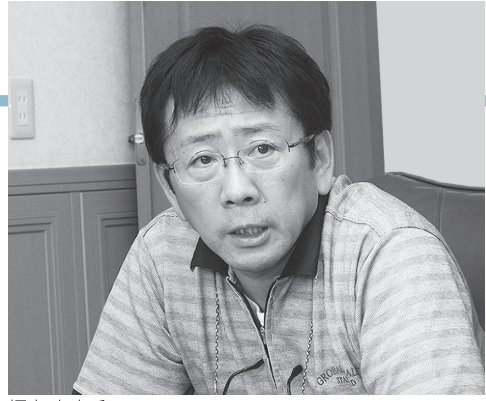
現在、毎日20数種類の革を作っています。色が微妙に違うなど、どうして



工場外観



工場横に設けられたショールーム



福本 真也氏

もロスが発生します。また、サンプル品も展示会などに合わせてその都度作ります。こうしたものも1年間にすると結構な数量になります。

また、細かく分けてオーダーしてくる取引先もあり、あらかじめ見込んで生産したものが外れるようなこともあります。こういったものをネットで販売しています。

社会的責任を果たす姿勢として 日本エコレザーに取り組み

杉田 一般社団法人日本タンナーズ協会では今後の課題として、輸出を挙げていますね。協会の次世代グループとして、日本産革の普及をテーマに、将来は輸出していかうという考え方で取り組んでいます。

その際にアピールできるのは、安心・安全な革ではないでしょうか。

福本 輸出に関しては、以前、トリアル的に少量を販売したことはありましたが、継続的な取引にはなりませんでした。

しかし、国内で今以上に革の市場を拡大していくことは難しく、むしろさらに厳しい状況になると思いますので、今後は輸出を視野に入れて取り組んでいくべきだと考えています。

輸出するには、ある程度レベルの高い品質の革でないとい無理でしょう。日本エコレザー基準(JES)が世界のトップブランドから認知されるようになれば、値段の高いことなど問題にならなくなるでしょう。

今後、大手メーカーが革を選ぶ基準は、品質はもちろんのこと、センスの良さに加えて、安心・安全な革であることです。消費者に渡つてからもトラブルが発生しない革ですね。その点、JESの認定を受けた革であれば、どこに持つて行つてもクレームはつかないと思います。

杉田 日本の革でも、世界のものとは比べて優れたものもあれば、劣るものもあります。以前、中国を訪問した時、玄関に排水処理設備の写真を掲げ、分析数値を表示している会社もありました。こうした革と差別化するには、やはり「安心・安全」な革で、環境に配慮した生産が求められるでしょう。

稲次 昨年度、一昨年度と2年にわたつて皮革消費科学研究会の会員の皆様を引率して、御社の工場を見学させてもらいました。その際に日本エコレザー認定制度をご紹介し、実際にJESの認定を受けてもらいました。JES

認定の目的はどこにありますか？

福本 当初は、特別の狙いがあったわけではありませんが、日本エコレザーが世間に普及し認知されるようになれば、認定を受けておいたほうがいいと考えて申請しました。環境問題に対する考え方や消費者の見方は昔とは変わっており、さらにルールは厳しくなっています。

JESの認定を受けても、すぐ売上げが急激に伸びるわけではありませんが、当社の姿勢として、今後の革作りにおいて改善・挑戦をしていく上で、取り組むべきことだと考えたからです。

以前は、企業の環境対応と言われてもピンと来なかつたのですが、実際にJESの認定を受けてからは、企業の社会的責任として環境問題について常に意識するようになりましたね。

日本エコレザーなど付加価値のある革なら、海外にも売り込める

杉田 以前、エコレザーが業界で取り上げられ始めた頃は、単にクロムを使つていない革をエコレザーと認識していました。

しかし、現実問題として、世界の皮革市場ではクロム(なめ)しの革が80%以上を占めています。そこで、クロム



杉田正見氏



稲次俊敬氏

靴しも含んだエコレザーを考えようということになり、環境問題の先進国であるドイツのSGラベルの基準値を採用しました。すなわち、溶出クロム量が、幼児用の革で50mg/kg、成人用の革で200mg/kgです。

稲次 日本エコレザーがスタートした当初は、非常に多くの申請がありました。しかし、認定を受けただけでは革や革製品がすぐに売れるわけではないのです。現状では、年間の申請数は減っています。

一方、最近は海外で生産された革が、JESの認定を受けるという新しい動きが始めています。もしこれが大きな動きになれば、海外のタンナーがJES認定件数の多くを占めることになってしまいます。日本のタンナーさんにはもっと頑張ってもらいたいですね。

福本 近年の皮革業界は、川上から川下まで適正な利益を上げていません。安く作れるから、市場が求める価格に合わせるため、といった理由から革を海外で調達するという動きになっています。国内でのものづくりがゼロにならないとしても、これでは、将来に夢が持てずに若い人材を育てることはでき

ません。

製品メーカーと一緒になって海外に工場を持つことも考えられますが、すでにその力もなくなっている企業が多いのではないのでしょうか。海外の誰もが納得してもらえない革を国内で作っていくことが、これからは大事になっていくでしょう。

杉田 今後の生産について、考えていることは？

福本 ここ2、3年は原皮が高かったのですが、以前と同じ量の皮を買って続きができました。それで品質を維持することができ、返品などの大きなトラブルもなく、信頼関係を持続させることができました。

当社の現状は、婦人靴用の革が4割



シューズルーム内部の様子

を占め、3割が紳士靴用の革です。婦人靴の革では良いものが求められます。ファッション商品なので、常に新しい企画で多品種少量の革を供給しなければなりません。現状では婦人靴の市場が厳しいため、バッグ用の比率を20%にしたいと考えています。

小売店とも取り組み、日本エコレザーの流通を大きな流れに

杉田 日本エコレザーに対して、こうしてもらえばもっと生産しやすいとか、生産メーカーに伝えやすいとか、何か要望はありますか？

福本 日本エコレザーが周知され、浸透して行くためには、末端市場の小売店の方に、その良さ、価値を伝えるべきでしょうね。小売店が、日本エコレザーが安心・安全な革であることを理解し、消費者に説明できるようにすれば、販売も伸びていくでしょう。売場から日本エコレザーを使った製品を作って欲しいと問屋やメーカーに要望が出るようになれば、もっと動いていくと思います。

杉田 私ども日本皮革技術協会では、



工場内部の様子

川下に向けた啓蒙活動として、「日本エコレザラー講習会」を全国で開催しています。講習後、参加者にアンケートを取ると「もっと日本エコレザラーをアピールしてもらいたい」という意見が多く見受けられます。

稲次 先日、百貨店の集まりで日本エコレザラーを説明する機会がありました。ここでは、川下から仕掛けないと広がらないということ、他がやらない今こそが日本エコレザラーを使ったビジネス・チャンスであると薦めました。

百貨店はストーリー性のある商品には大きな関心を持っています。早速、エコをテーマとした販売企画を立てたいので、協力してほしいという申し出もありました。

杉田 革の講習会で日本エコレザラーが理解されても、そこからアクションがなければ進みません。今年から、特定芳香族アミンを容易に生成するアゾ染料を含む家庭用品の販売が禁止されました。百貨店の方も、安心・安全および環境には、より高い関心を持っています。

ます。

福本 成功事例が出れば、自店でも取り入れようということになります。そうになると、製品メーカー・卸は作らざるを得なくなります。日本のタンナーは売り方を工夫すべきです。革の品質・風合いはヨーロッパのもの比べても、それほど遜色はありません。

日本エコレザラーのような、安心・安全という品質の裏付けを付加価値として、日本独自の良い革をもっとアピールすべきです。